

香川高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	通信法 I
科目基礎情報				
科目番号	2133	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	通信ネットワーク工学科（2019年度以降入学者）	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	吉村和昭著 「第一級陸上無線技術士試験 やさしく学ぶ 法規」 オーム社			
担当教員	川久保 貴史			

到達目標

1. 電波の利用には法による規制が必要であることを理解する。
2. 無線局及び無線従事者の免許制度を理解する。
3. 電波を有効利用するために、技術的条件を定めることの必要性を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	電波の特質や利用分野を認識し、電波の利用には法による規制が必要であることを理解できる。	電波の利用には法による規制が必要であることを理解できる。	電波の利用には法による規制が必要であることを理解できない。
評価項目2	電波の特質や利用分野を認識し、電波利用の秩序を維持するために、無線局及び無線従事者の免許制度が必要であることを理解できる。	電波利用の秩序を維持するために、無線局及び無線従事者の免許制度が必要であることを理解できる。	無線局及び無線従事者の免許制度が必要であることを理解できない。
評価項目3	電波の特質や利用分野を認識し、電波を有効利用するために、技術的条件を定めることの必要性を理解できる。	電波を有効利用するために、技術的条件を定めることの必要性を理解できる。	電波を有効利用するために、技術的条件を定めることの必要性を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	我が国の電波利用に関する基準を定めた法律である電波法を正しく理解し、これから社会で活動する学生に必要な知識・能力を養うことを目標とする。併せて無線従事者国家試験受験のため、必要な学力を身につける。
授業の進め方・方法	1. 授業は教科書に沿って進める。電波法のしくみを理解するうえで必要と思われる事項を中心に講義を行い、さらに無線従事者国家試験受験のための演習問題を取り入れる。 2. この科目は学修科目単位のため、自学自習としてレポート課題を課す。
注意点	試験85%と課題15%を合わせて成績評価する。 この科目は学修科目単位のため、授業外学習として、自学自習として授業内容についてのレポート課題を課します。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	電波関係法令の体系	法令用語の定義や電波関係法令の概要を理解する。D2:1
		2週	電波法の概要	電波法の目的を理解する。
		3週	電波法の概要	条約との関係を理解する。
		4週	無線局の免許制度	無線局の開設が免許制度であることを理解する。A1:2
		5週	免許手続	免許の申請、有効期間及び再免許等の手続を理解する。D2:3
		6週	免許手続	免許内容の変更手続を理解する。
		7週	無線従事者	無線従事者の免許制度と操作範囲を理解する。D2:1
		8週	無線従事者	無線従事者の免許制度と操作範囲を理解する。D2:1
	2ndQ	9週	無線局の運用	無線局運用の基本原則を理解する。
		10週	無線局の運用	無線局運用の基本原則を理解する。
		11週	無線局の運用	電波を能率的に利用するには運用の方法（通信方法）が大切であることを理解する。D2:2
		12週	無線設備	送信設備から発射される電波の質の重要性を理解する。D2:3
		13週	無線設備	電波を有効利用するために必要な技術的条件を理解する。D2:1
		14週	監督等	検査・報告等の重要性を理解する。
		15週	期末試験	期末試験
		16週	答案返却・解説	答案返却・解説

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前1,前2,前3
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前1,前2,前3
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	前1,前2,前3

				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	前1,前2,前3
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前1,前2,前3

評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	15	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	85	15	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0